

## 穂別町立博物館の来館者の傾向 —1999 年度調査結果より—

### Visitors to Hobetsu Museum

- Based on the result of a survey taken in 1999 -.

櫻井和彦

Kazuhiko SAKURAI

穂別町立博物館, 北海道勇払郡穂別町穂別

*Hobetsu Museum, Hobetsu, Yufutsu-gun, Hokkaido, 054-0211 Japan*

#### Abstract

In 1999, to reveal the type of visitors to Hobetsu Museum, we carried out a survey. Basic data was collected to enable us to make future alterations to museum exhibitions. The results of the survey showed that most visitors were not from Hobetsu, they were visiting for the first time, were with their family and were sightseeing. The results match past data taken in 1982, 1986, 1987 and 1995, and observations from the reception, so I think it is an appropriate result.

Although the exhibitions are not the only activity of the museum, undoubtedly they are one of the most effective activities in "Popularization and Education". Hobetsu Museum does not plan to alter its current policy at present, and we will continue our activities based around the fossils discovered in the area.

However, to create an interesting and appealing museum, I will strive to improve on the exhibitions in Hobetsu Museum, based on this data.

Key words- Hobetsu Museum, Museum visitors

(2000 年 3 月 3 日受付)

#### はじめに

穂別町立博物館は、北海道中軸部に位置する穂別町から豊富に産出する動物化石（特に、中生代白亜紀後期の海棲爬虫類化石および軟体動物化石）を主体とした自然史博物館である。

1977（昭和 52）年、地元の化石愛好家によって町内から採取された動物化石が長頸竜化石の一部であることが判明し、同年の発掘調査によって、胴体の大部分を含む長頸竜化石が発見された。当館は、この長頸竜化石（HMG-1、通称「ホベツアラキリュウ」）の全身復原骨格を目玉として、1982（昭和 57）年に開館した。開館当時は自然史系資料（穂

別町の地質と生物の進化）と人文系資料（開拓の歴史、昔の農機具等）の双方を展示する総合博物館であったが、1992（平成 4）年の展示更新により、展示内容を動物化石を中心とした自然史系資料に絞り、また、展示資料も基本的に町内から産出する資料とした。そうした展示方針により、穂別町立博物館は「ここにしかない博物館」を目指している（詳細は、櫻井、2000 を参照）。

その基本方針は当面変更する予定はないが、「魅力ある博物館」をつくるためには常設展示の充実が重要な課題である。そのためには、どのような人々が見学を訪れているのか、その現状を把握することが不可欠と考える。

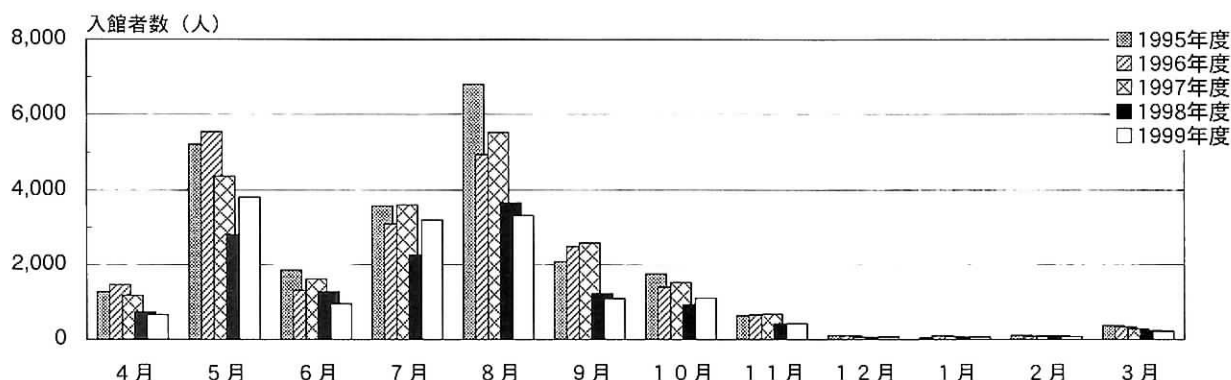


図1 最近5か年の月別入館者数

最近5か年(1995年度~1999年度)の月別入館者数。来館者数は5月と7月・8月にピークがあり、この3か月の入館者数の合計は年間全入館者数の60%を優に上回る。また、5月~9月の5か月の合計は年間の80%を超える。それに対し、12月~2月の3か月の合計は年間のわずか1%程度である。

よって、常設展示を今後とも更新していく上での基礎資料として、穂別町立博物館を訪れる見学者の傾向を把握するために、常設展示室の受付窓口において来館者を対象にアンケート調査を行った。

今回はその概要を紹介し、若干の検討を加える。なお、当館では、これまでも同様な調査を4回(1982年度、1986年度、1987年度、1995年度)実施しているため、その内容も合わせて紹介する。

#### I. 来館者の傾向(受付窓口での印象から)

これまで受付窓口において経験的に把握されている来館者の傾向について以下に述べる。

##### 1. 年間を通じた来館者の動向

一年を通じた来館者の動向を見ると、5月の大型連休(いわゆるゴールデンウィーク)および7月末から8月の夏休みやお盆休みに集中している。また、春季や秋季でも休日や祝日にはある程度来館者が訪れる。それに引き換え、冬季は非常に少なく、平日では来館者が1人も訪れない日さえある。

この傾向は、月別入館者数にも反映されている(図1)。一年間のうち、5月、7月、8月にピークが見られ、この3か月の入館者数の合計は年間の全入館者数の60%を優に上回る。これに6月、9月を加えた5月~9月の5か月間(初夏~初秋)の入館者数の合計は年間の80%を超える。また、図1には示されていないが、団体入館者は7月が最も多く、当月の入館者数の30~40%(1999年度は約53%)を占める(1999年度については、図3を参照)。これは夏休み前に小中学校の修学旅行や研修旅行が集中するためと考えられる。それに対し、12月~2月の3か月間(冬季)の入館者数の合計は年間のわずか1%程度である。冬季は雪に覆われるために遠方へ出かける人が減少し、また観光客の訪れ

る場所も限定されるという北海道特有の傾向であると考えられる。なお、3月からやや増加に転じるが、これは隣接する「穂別地球体験館」(穂別町役場林務商工課管轄の体験型「観光施設」。様々な地球環境が体験できる。近年は自然観察会や創作体験など、各種の体験学習も実施している。)が冬季の休館期間(11月下旬~3月中旬)を終えて活動を再開するため、その波及効果と考えられる。

##### 2. 来館者の年齢層・同伴者など

来館者として良く目にするのは、父母と子ども、祖父母と子ども、といった家族連れである。その他、やや年配の女性のみ、若者のみといった小人数のグループや、年配の夫婦、若い二人連れなどが多い。

##### 3. 来館の目的

観光や、隣接する穂別地球体験館を見学したついでに訪れたり、旅行で訪れる人、本人もしくは子どもが恐竜や化石に興味があって訪れる人が多いようである。穂別町立博物館は、道内でも数少ない古生物専門の博物館として一定の知名度はあるらしい。また、夏休み時期には、子どもの自由研究として訪れる親子連れも見られる。さらに、テレビや新聞等で新たな化石発見のニュースや博物館の紹介が取り上げられると、一時的に増加する傾向がある。

##### 4. 経験から推測される来館者の傾向

以上の受付窓口における経験、そして夏季に来館者数の大部分が集中するという傾向から、来館者の大半はレジャーや観光で訪れる家族連れであることが推測される。道央から道東へと通じる幹線道路の一つである国道274号は町内のかなり北方を通り、博物館は町のほぼ中央に位置する市街地にあるという立地条件から考えても、「通りすがりに立ち寄って見る」型の来館者は少ないものと思われる。また、

**入館者アンケート（個人入館者用）**

〇〇〇 当てはまるものを丸で囲んでください 〇〇〇

月日	どちらから？	お歳は？	来館は何回目？	どなたと一緒に？	来館の目的は？
/	町内・町外	歳	初めて・2回以上	家族と・友人と・ひとりで	観光・学習・何となく
/	町内・町外	歳	初めて・2回以上	家族と・友人と・ひとりで	観光・学習・何となく
/	町内・町外	歳	初めて・2回以上	家族と・友人と・ひとりで	観光・学習・何となく
/	町内・町外	歳	初めて・2回以上	家族と・友人と・ひとりで	観光・学習・何となく
/	町内・町外	歳	初めて・2回以上	家族と・友人と・ひとりで	観光・学習・何となく

図2 本調査で使用したアンケート用紙

回答率を高くすることを最優先にし、設問は可能な限り簡潔にした。受付窓口にて、入館手続きの際に実施する。来館者1人あたり1行で、全員分記入してもらう。

来館者のほとんどは町外から訪れた人々であり、穂別町民は「以前に一度見たことがある」のみで、たびたび足を運んでくる人はごくまれである。

経験によるこうした推測を検証し、来館者の実情を把握するために、今回の調査を行った。

## Ⅱ. アンケート調査の実施要領

アンケート調査の目的、実施要領、調査項目、調査結果の活用について以下に述べる。

### 1. 目的

穂別町立博物館を訪れる見学者、特に個人見学者に限り、その実態を把握するために行う。

### 2. 要領・調査項目

受付窓口で、入館料を支払う際に記入してもらう。短時間で、かつ気軽に記入できるように、各調査項目について選択肢を選ぶ形式とする。ただし、入館者の年齢については具体的な数字を記入してもらう。今回は回収率を高くすることを最優先とし、項目も「町内在住・町外在住」「年齢」「来館数」「同伴者」「来館目的」のみとした。よって、「来館者の興味・関心」「展示内容に関する感想」は本調査では得られない。アンケート用紙は図2を参照。

#### A. 入館日

時期によって入館者の層がどれだけ異なるか把握するために調査する。記入時や集計時の混乱を避けるため、日付はあらかじめ記入しておく。

#### B. 入館者の住居

全入館者における、穂別町民と町外者の比率を把握するために調査する。選択肢は、「町内」と「町外」の2つとする。穂別町民であるかそうでないかを区別するために行うので、具体的な市町村名は問わない。

#### C. 入館者の年齢

入館者の年齢層を把握するために調査する。目的に応じて集計できるように、年齢そのものを記入してもらう。

#### D. 入館の回数

全入館者における、リピーター（2回以上訪れている見学者）の比率を把握するために調査する。選択肢は、「初めて」「2回以上」の2つとする。初めて入館した者と2回以上の者とを区別するために行うので、具体的な回数は問わない。

#### E. 同伴者

入館者がどのようなきっかけで博物館を訪れるのか把握するために調査する。選択肢は、「家族」「友人」「ひとりで」の3つとする。下記の「入館の目的」の調査結果と合わせて、博物館を訪れる動機を把握するために設定する。

#### F. 入館の目的

入館者が何を求めて訪れるのか把握するために調査する。選択肢は、「観光」「学習」「何となく」の3つとする。入館の目的は入館者によって多様であると思われる中で、観光を目的に訪れたのか化石や自然史の学習を目的に訪れたのか大別できるように設定した。なお、「何となく」は、特に目的がなく立ち寄った者や、同伴などで入館した者に対する選択肢である。

### 3. 調査結果の活用

年間を通じた調査によって、穂別町立博物館を訪れる人々について、穂別町民・町外者の比率、年齢層、入館回数、入館の動機（同伴者・目的）が把握でき、それらの時期による変化が把握できる。いつ、どのような人が、どれくらい、どのようなきっかけで入館しているのかが把握できるため、今後の展示づくりや博物館の運営方針を検討する上で重要な資料となる。

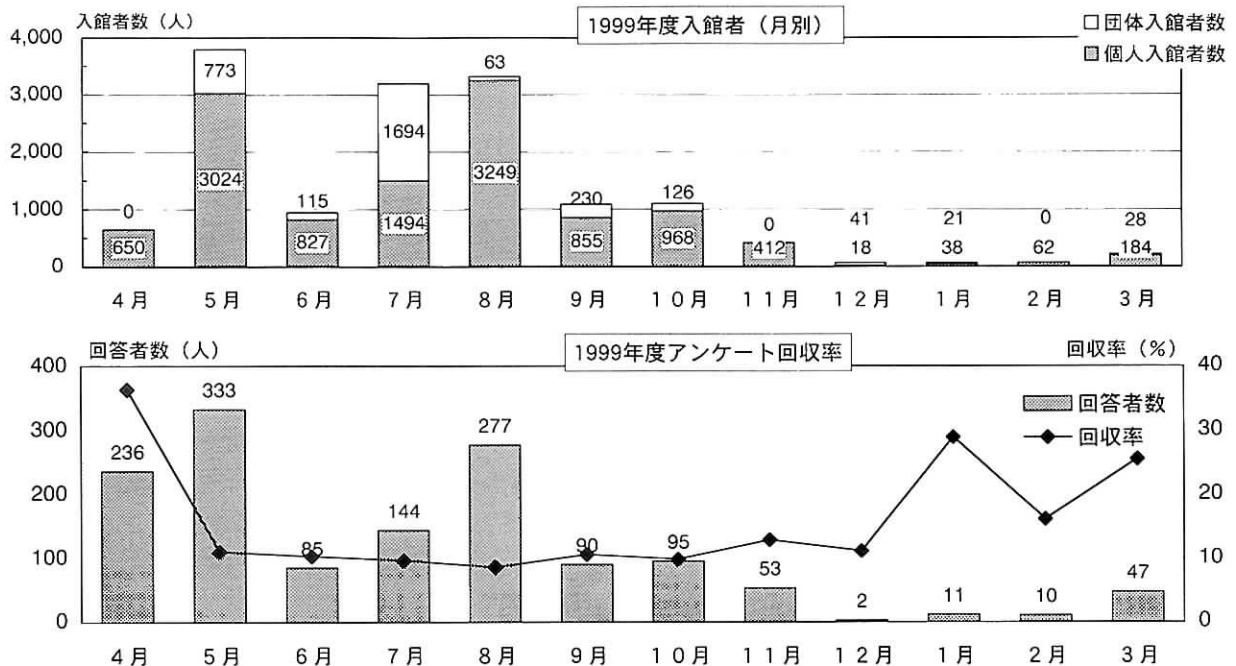


図3 月別入館者数とアンケート回収率

1999年度の月別入館者数（上），1999年度のアンケート回収率（下）。

来館者数は5月と7月・8月にピークがある。1999年度のアンケート回収率は、4月が36.3%、1月が29.0%、3月が25.5%、他は10%前後で、年間では11.74%である。アンケート回収率は、個人入館者数に対するパーセンテージ。

4. 留意点

A. 個人入館者を対象に調査する

アンケート調査は、個人入館者を対象に実施する。団体入館者の場合は団体として目的を持って訪れるため、必ずしも見学者の意向と一致しているとは限らない。一定の目的をもって、すなわち、ある程度は自発的に訪れているであろう個人入館者を対象に調査を行う。

B. 入館者の実態把握を目的とする

今回のアンケート調査では、入館者の実態把握を目的とする。入館者の展示内容に対する感想を得るためには、受付窓口でアンケート用紙を配布し、設問ごとに記入してもらい、退館の際に回収する形があるが、この場合は高い回収率を期待することは難しいと思われる。本調査では、入館者の実態把握を目的とし、回収率を高くすることを優先した。あらかじめ用意された選択肢を選ぶ形式としたため、気軽に記入できる反面、得られる情報は限られたものとなっている。展示内容についての感想は本調査では得られないため、この点については別途調査する必要がある。

C. 窓口担当者の協力が不可欠

入館者には、受付の際に窓口で記入してもらう形となるため、窓口担当者の協力が必要となる。アンケート用紙への日付の記入、入館者へ記入の呼びかけ、アンケート用紙の管理（用紙の補充など）など、

特に繁忙期には担当者にとって負担となることを説明した上で協力を要請した。

III. 調査結果（1999年度）

1. 実施期間と回答数

本報告は、1999年4月から2000年3月末日までの1年間の調査結果の集計である。回答者数1383人。

2. 月別来館者数とアンケート回収率

穂別町立博物館の月別入館者数（1999年度）とアンケートの回収率を図3に示す。

最近5か年の傾向（図1）と同様に、5月、7月、8月にピークが見られ、この3か月の月別入館者数はそれぞれ3,000～4,000人に及ぶ（余談であるが、穂別町の人口は2000年3月1日現在、4,059人である）。この3か月間の入館者数の合計は10,297人で、1999年度の入館者総数の69.2%を占める。それに引き換え、12月～2月の月別入館者数は2桁台であり、この3か月間の入館者数の合計は180人で、総数のわずか1.2%である。なお、1999年度の入館者総数は14,872人で、前年比1,251人増である。そのうち、今回のアンケート調査の対象となった個人入館者数は11,781人で総数の79.2%を占める。

アンケートの回収率（個人入館者数に対するパー

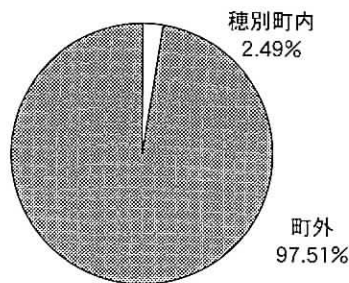


図4 1999年度アンケート調査結果(その1)

1999年度アンケート調査の結果のうち、来館者の居住地について示す。「穂別町内」が2.5%に対して、「町外」は97.5%である。既存調査(1982年度、1986年度、1987年度、1995年度)の結果は、図6を参照。

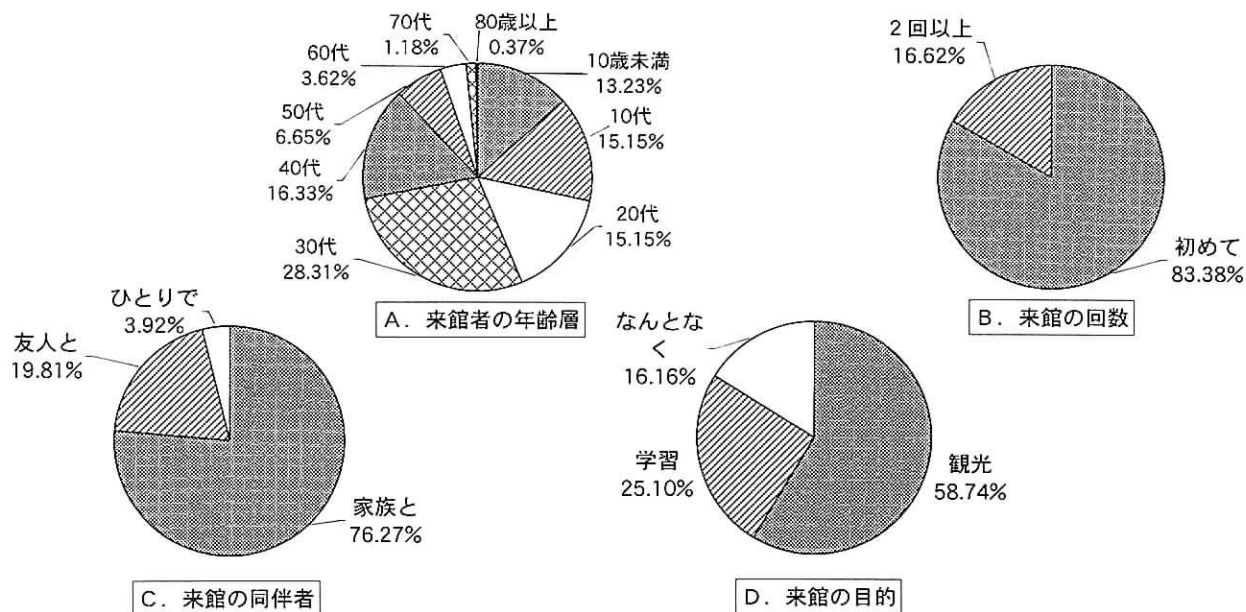


図5 1999年度アンケート調査結果(その2)

1999年度アンケート調査の結果のうち、来館者の年齢層、来館回数、同伴者、来館の目的について示す。

センター)は、調査を始めた4月で36.31%、1月で28.95%、3月で25.54%を示すが、それ以外では10%前後で、1999年度の総計では11.74%である。

### 3. アンケート調査結果

アンケート調査結果を図4と図5に示す。なお、パーセンテージは無回答を除いて計算しており、「同伴者」と「目的」には重複回答が含まれている。

#### A. 来館者の居住地(図4)

穂別町民は33人(2.49%)、町外者が1293人(97.51%)である。無回答57人。

#### B. 来館者の年齢層(図5)

10歳未満179人(13.23%)、10代205人(15.15%)、20代205人(15.15%)、30代383人(28.31%)、40代221人(16.33%)、50代90人(6.65%)、60代49人(3.62%)、70代16人(1.18%)、80歳以上5人(0.37%)である。多い順に30代、40代、10代・

20代となり、その合計1,014人は全体の73.3%を占める。無回答30人。

#### C. 来館の回数(図5)

「初めて」が1144人(83.38%)、「2回以上」が228人(16.62%)である。無回答11人。

#### D. 来館の同伴者(図5)

「家族と」が1051人(76.27%)、「友人と」が273人(19.81%)、「ひとりで」が54人(3.92%)である。無回答21人、重複回答17人(「家族」と「友人」の重複)。

#### E. 来館の目的(図5)

「観光」が847人(58.74%)、「学習」が362人(25.10%)、「何となく」が233人(16.16%)である。無回答21人、重複回答87人(「観光」と「学習」の重複が最も多い)。「観光」:「学習」はほぼ2.5:1である。

窓口担当者の印象によると、見栄(?)で「学習」を選んだような人が少なからずいたらしい。これは



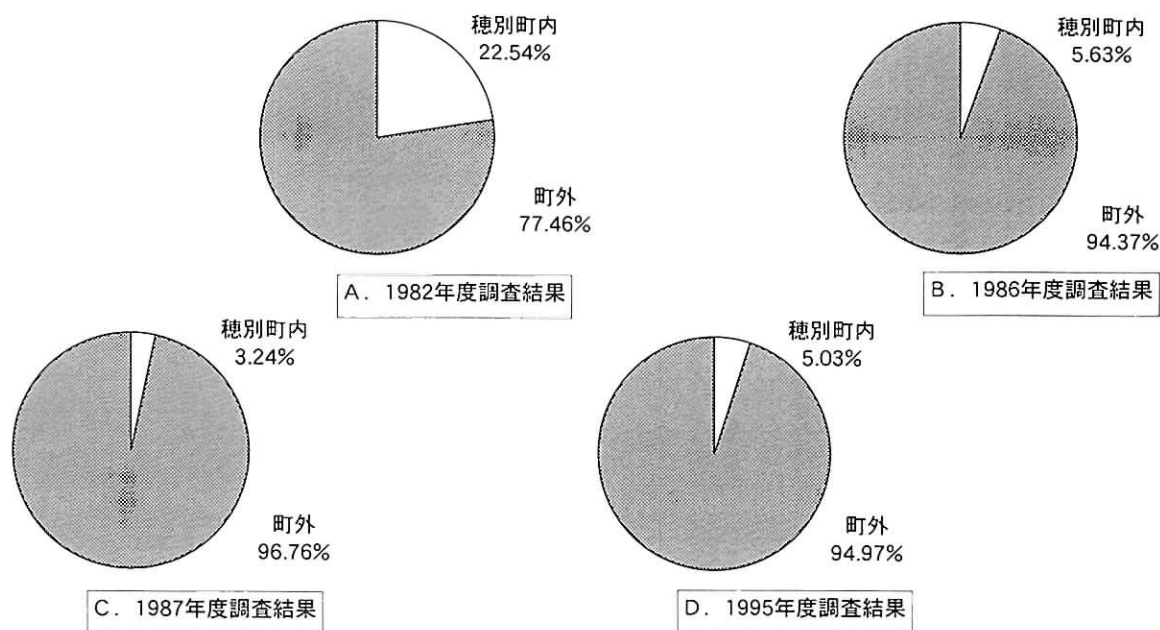


図6 既存アンケート調査のうち、来館者の居住地に関する調査結果  
1982年度 (A), 1986年度 (B), 1987年度 (C), 1995年度 (D)。1999年度は図4を参照。

予期しなかった点である。

#### Ⅳ. 既存の調査結果から

穂別町立博物館では、これまでも同様な調査を4回実施している(1982年度、1986年度、1987年度、1995年度)。これらの調査は展示内容に関する評価を目的とし、見学しながら記入してもらい、退館時に回収する形式である。今回の調査内容と重複する点(今回は、来館者の居住地のみ)を取り上げて比較資料とする。なお、1999年度調査と同様、パーセンテージは無回答を除いて計算してある。調査結果を図6に示す。

##### 1. 1982年度調査

1982年7月25日～8月30日に実施。穂別町立博物館の開館(1982年7月20日)直後の調査である。展示内容全般について感想を求めている。回答者数96人。

調査結果は、穂別町民16人(22.54%)、町外55人(77.46%)である(図6)。

データは、「博物館アンケート実施報告について」(鈴木、1982年度穂別町立博物館内部資料)に基づく。

##### 2. 1986年度調査

1986年6月10日～8月8日に実施。来館者の住所、年齢層、動機、交通手段、博物館の印象について求めている。回答者数292人。

調査結果は、穂別町民16人(5.63%)、町外268

人(94.37%)である(図6)。データは、「穂別町立博物館報 第4号」(穂別町立博物館、1986)に基づく。

##### 3. 1987年度調査

1987年7月14日～8月16日に実施。前年度(1986年度)とほぼ同様なアンケート調査を実施している。回答者数346人。

調査結果は、穂別町民11人(3.24%)、町外292人(96.76%)である(図6)。データは、「穂別町立博物館報 第5号」(穂別町立博物館、1987)に基づく。

##### 4. 1995年度調査

1995年2月～10月(繁忙期を除く)に実施。1992年の展示更新(自然史博物館への方針転換)や隣接する穂別地球体験館の開館(1991年)など穂別町立博物館を取り巻く情勢の変化を受けて、来館者の実際および展示資料に関する感想を改めて把握することを目的としている。回答者数381人。

調査結果は、穂別町民19人(5.03%)、町外359人(94.97%)である。(図6)。

データは、「穂別町立博物館報 第13号」(穂別町立博物館、1995)に基づく。

#### Ⅴ. アンケート調査結果の考察

以上のアンケート調査結果に対し、若干の考察を行う。

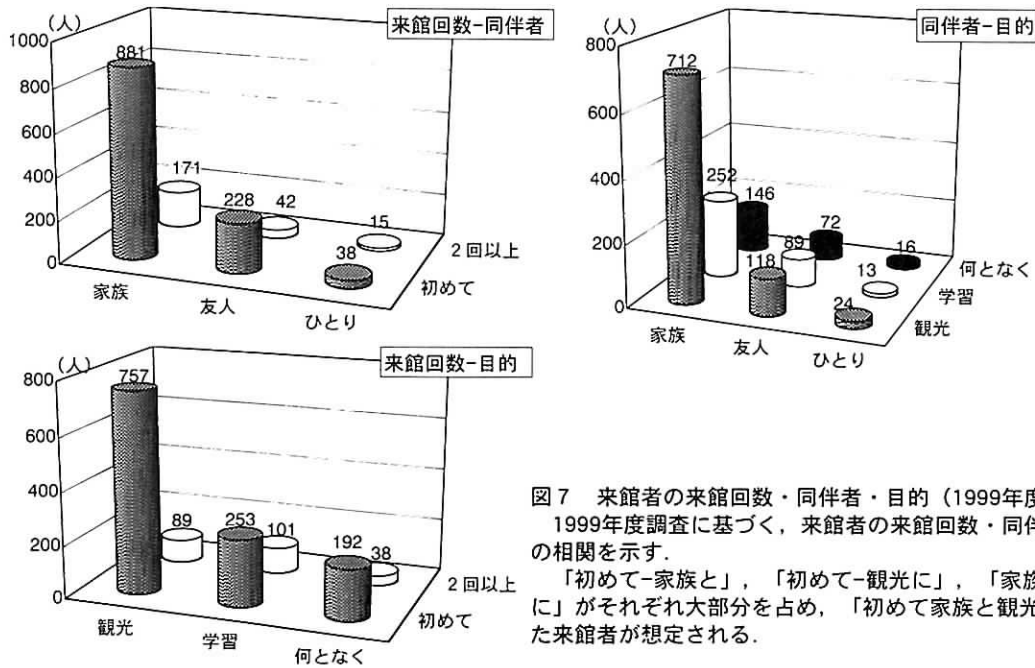


図7 来館者の来館回数・同伴者・目的 (1999年度)  
1999年度調査に基づく、来館者の来館回数・同伴者・目的の相関を示す。  
「初めて-家族と」、「初めて-観光に」、「家族と-観光に」がそれぞれ大部分を占め、「初めて家族と観光に」訪れた来館者が想定される。

### 1. 来館者全体の傾向

本調査から得られた、当館の来館者全体について、その傾向を考察する(図4～図7)。

#### A. 居住地(図4)

1999年度調査では、穂別町民はわずか2.5%であるのに対して、町外者は97.5%である(図4)。既存の調査(1982年、1986年、1987年、1995年)はアンケートの目的や形式が異なるため、比較には注意を要するが、調査結果はほぼ同様な傾向を示している(図6)。よって、来館者の約95%もしくはそれ以上が町外者であるという点は、穂別町立博物館の普遍的な傾向であると思なして良いだろう。

なお、1982年度調査では、穂別町民が約23%という他の調査に比べて著しく高い値を示しているが、調査が行われた時期が開館直後であったことから、穂別町民の関心の高さを反映しているものと考えられる。また、この調査では、居住地の無回答が25人(全回答者の約1/4)にも上り、この全てが町内から訪れたと仮定すると穂別町民の割合は約43%にも達するが、これは推測の域を出ない。

#### B. 年齢層、来館回数、同伴者、目的(図5)

以下は、1999年度調査の結果に基づく。

年齢層は、最も多いのは30代(約28%)で、40代(約16%)、10代・20代(ともに約15%)が続く。「30代～40代の親が10代の子どもを連れて家族連れ」や、「20代～30代の若者グループ」が想定される。これは「同伴者」から得られる結果とも調和的である。

来館の回数は、「初めて」が約83%を占める。

同伴者は、「家族と」が約76%である。これは前述の「年齢層」の結果とも調和的である。

来館目的は、「観光」が約59%である。「来館回数」の結果と合わせると、「初めて観光に訪れる来館者」が想定される。

#### C. 来館回数・同伴者・目的の相関(図7)

以上の調査結果から、「来館回数」、「同伴者」、「目的」についてそれぞれの相関を図7に示す。なお、それぞれ重複回答を含む。

「来館回数-同伴者」(有効回答数1375)では、「初めて-家族と」(881, 64.07%)が最も多く、他は少ない(17%以下)。

「来館回数-目的」(有効回答数1430)では、「初めて-観光」(757, 52.94%)が最も多く、他は少ない(18%以下)。

「同伴者-目的」(有効回答数1442)では、「家族と-観光」(712, 49.38%)が最も多く、他は少ない(18%以下)。

よって、「初めて家族と観光に」訪れた来館者が大部分を占めていることが推定される。

#### D. 来館者の傾向

以上の調査結果を集計すると、穂別町立博物館の来館者の傾向として、「親が30～40代の家族連れで、町外から初めて観光に訪れた」という見学者が大多数であると思われる。

### 2. リピーターの傾向

1999年度調査結果について、「初めて」訪れた見

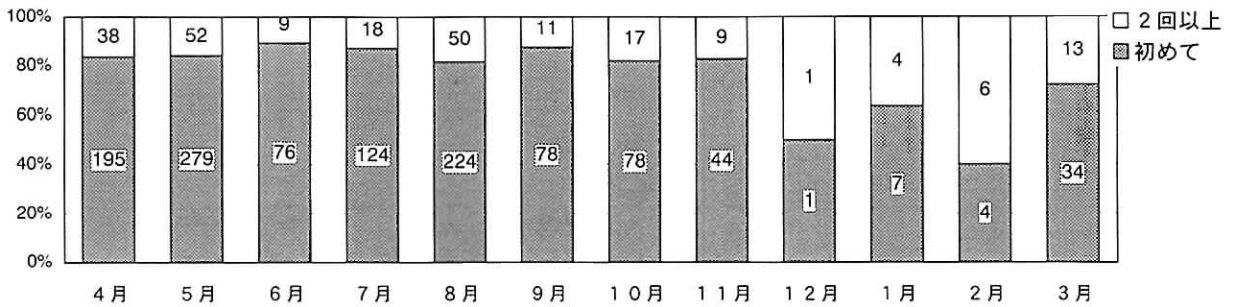


図8 「初めての来館者」と「2回以上の来館者」の比率の変化(1999年度、月別)

「2回以上の来館者」と「初めての来館者」の比率の、月別の変化。グラフ中の数字は、それぞれの来館者の実数。

「2回以上の来館者」(リピーター)は、4月～11月は11～18%、12月～2月は36～60%を占める(ただし、12月～2月は回答者数自体が少ないことに注意)。全回答者に占めるリピーターの比率は約17%である(図5)。

学者と「2回以上」訪れた見学者(リピーター)に区別し、それぞれの傾向を比較する(図8～図10)。なお、有効回答者数 1372 人のうち、「初めて」が 1144 人に対し「2回以上」が 228 人(約 5 : 1)である(図5)。

A. リピーターの比率(月別)(図8)

月別のリピーターの占める比率を図8に示す。

4～11月は11～18%、12～2月は36～60%、3月はその中間の28%を占める。12～2月の冬季に著しくリピーターが増加するが、来館した時期を考えれば当然であると言える。ただし、この期間は回答者数自体が少ない(2～11人)という点には注意すべきである。

B. 居住地(図9)

「初めて」では、穂別町民 4 人(0.36%)、町外 1,092 人(99.64%)である。無回答 48 人。

「2回以上」では、穂別町民 29 人(13.12%)、町外 192 人(86.88%)である。無回答 7 人。

リピーターでは、穂別町民の比率が著しく大きい。29人という人数は、今回の調査における穂別町民の総数 33 人の9割近い。当館の設立の経緯を考慮すれば、大部分の町民は、設立当時に最低一度は博物館を訪れているものと考えられる。よって、この結果は当然であると言える。なお、「初めて」の4人の内訳は、30代2人(「家族と」)、20代1人(「友人と」)、10代1人(「友人と」)である。

C. 年齢層(図9)

「初めて」では、多い順に30代(331人、29.37%)、20代(187人、16.59%)、10代(169人、15.00%)、40代(168人、14.91%)であり、その合計855人は全体の78.9%を占める。無回答17人。

「2回以上」では、多い順に40代(52人、23.53%)、30代(49人、22.17%)、10代(36人、16.29%)、10歳未満(34人、15.38%)であり、その合計171人は全体の77.4%を占める。無回答7人。

リピーターでは、「初めて」に比べて40代の比

率が増加し、代わりに20代と30代が減少する。特に20代の減少が著しく、順位も2位から5位へと後退する。

D. 同伴者(図9)

「初めて」では、「家族と」が881人(76.74%)、「友人と」が229人(19.95%)、「ひとり」が38人(3.31%)である。

「2回以上」では、「家族と」が168人(74.01%)、「友人と」が44人(19.38%)、「ひとり」が15人(6.61%)である。

リピーターでは、「初めて」に比べて「ひとり」が増加し、「家族と」の比率がわずかに減少する。

E. 来館の目的(図9)

「初めて」では、「観光」が756人(62.53%)、「学習」が259人(21.42%)、「何となく」が194人(16.05%)である。「観光」:「学習」はほぼ3:1である。

「2回以上」では、「観光」が88人(38.43%)、「学習」が102人(44.54%)、「何となく」が39人(17.03%)である。「観光」:「学習」はほぼ1:1である。

リピーターでは、「初めて」に比べて「学習」が著しく増加し、2倍以上の比率となる。その反面、「観光」が減少し、「学習」より比率が小さくなる。

F. 「同伴者」と「目的」の相関(図10)

当館を訪れた動機(きっかけ)を把握するため、「同伴者」と「目的」の相関関係を図10に示す。有効回答数は、「初めて」が1223、「2回以上」が229である(ともに重複回答を含む)。

「初めて」では、「家族と-観光」が圧倒的多数(639、52.25%)を占め、その他「家族と-学習」(187、15.29%)や「友人と-観光」(104、8.50%)もやや目立つが概して比率は小さい。

「2回以上」では、「家族と-観光」(77、33.62%)と「家族と-学習」(72、31.44%)が多く、この2つで全体の65.1%を占める。その他、「友人と-学



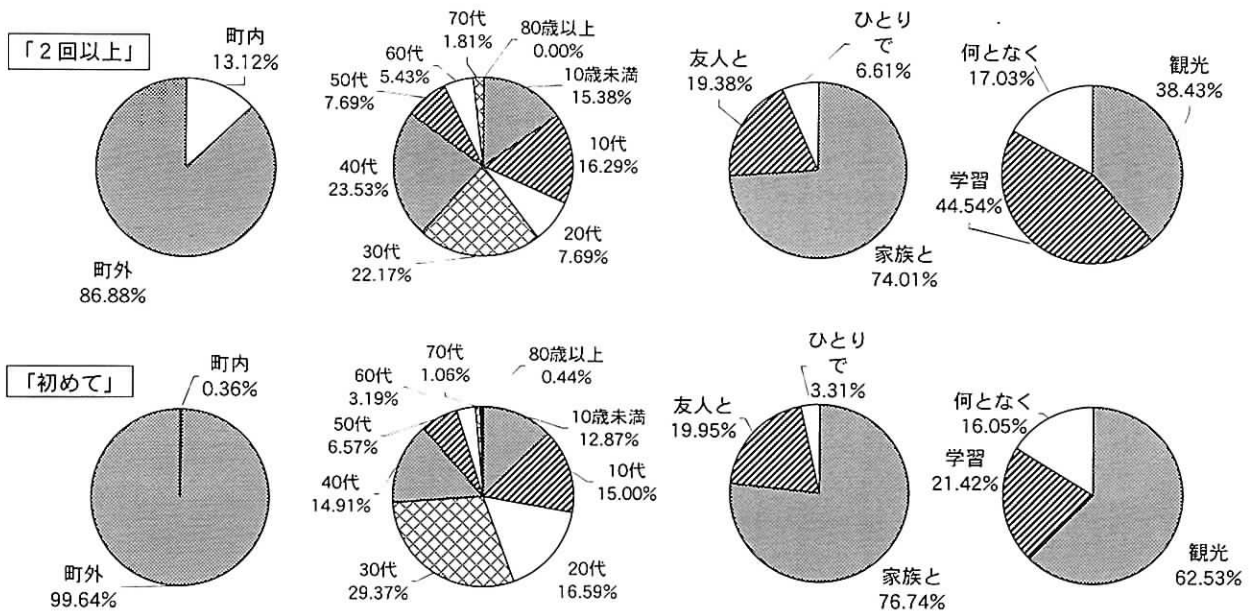


図9 「初めての来館者」と「2回以上の来館者」の傾向の比較（1999年度，その1）  
 「2回以上の来館者」（上）と「初めての来館者」（下）．左から、「居住地」，「年齢層」，「同伴者」，「目的」．  
 「2回以上」と「初めて」の回答者数の比は約1：5である（図5）．

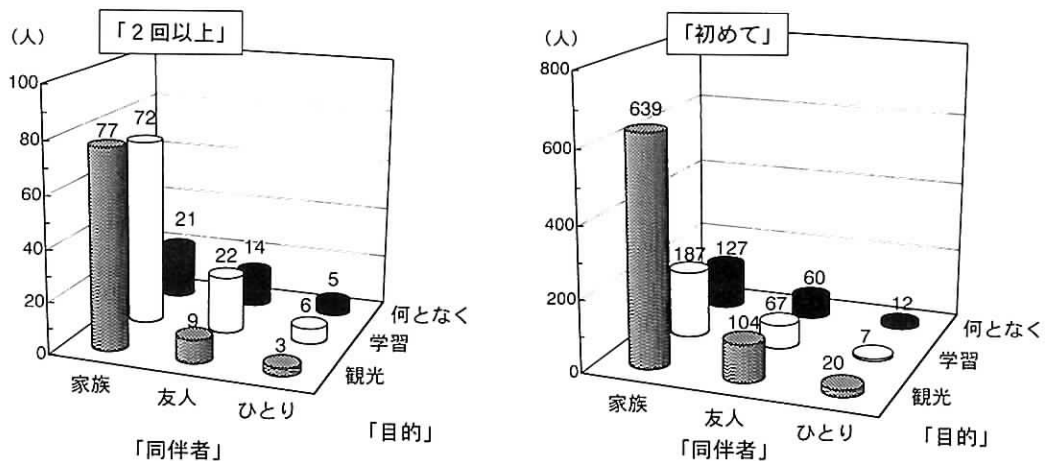


図10 「初めての来館者」と「2回以上の来館者」の傾向の比較（1999年度，その2）  
 「2回以上の来館者」（左）と「初めての来館者」（右）．「同伴者」と「目的」の相関図．  
 「2回以上」では、「家族と-観光」，「家族と-学習」が多く、「初めて」では、「家族と-観光」が大部分を占める．

習」（22，9.61%）もやや多い。

リピーターでは、「家族と-観光」と「家族と-学習」が多く、この2つで全体の65.1%を占める。

#### G. リピーターの傾向

当館を訪れるリピーターは、冬季（12～2月）に集中する傾向が見られる（図8）。ただし、本調査ではその期間中の回答者数は非常に少ないため、さらなる調査によって検証する必要がある。

「居住地」，「年齢層」，「同伴者」，「目的」等については、「初めて」訪れた見学者の傾向は年間の来

館者全体の傾向（図4，図5）とほぼ同様の傾向を示す一方で、「2回以上」訪れた見学者（リピーター）はそれらとやや異なった傾向を示す（図9）。

すなわち、穂別町立博物館を2回以上訪れている見学者（リピーター）の傾向として、「親が30～40代の家族連れで、町外から観光もしくは学習に訪れた」という見学者が想定される。目的として「学習」が大きな比率を占め、かつ、少数ながら当館を訪れている穂別町民の大部分が含まれていることが、「初めて」の見学者と大きく異なる点である。

#### 4. 留意点

以上のアンケート結果、特に 1999 年度調査の結果を検討するに当たって、主として受付窓口での観察事実に基づき、いくつかの留意点を述べる。

##### A. 家族連れ

家族連れで訪れた場合は、概して回答率は高いが、その一方で全員分が記入されているとは限らない。親（主として、母親）が記入する場合は大抵全員分が記入されるが、子どもが自らの分のみを記入している場合も多く見受けられた。また、子どもが先に展示室に入ってしまうと親は後を追って行き、記入されない。「家族連れ」に印がつけられながら、一人分のみ記入されている場合も多く見受けられた。中には別の調査と勘違いしたのか、「世帯主のみでよい」と思った人もいたようである。

##### B. 穂別町民

穂別町民が博物館を訪れるのは、無料入館日\*もしくは来客を案内する場合がほとんどである。本人は以前にも訪れている場合が大部分で、そのためか記入する人はごくまれである。町内の子ども場合は児童無料入館日（第2・第4土曜日）に訪れることが多く、割と積極的に記入していたようである。

アンケート調査の結果に示された、穂別町民の利用者は極めて少ない（33人、2.5%）という傾向は、見学に訪れてもアンケートにはほとんど記入していない一方で、訪れる町民が実際に少ないのも確かであろう。これは、博物館設立のきっかけとなった長頸竜化石の発見（1977年）から20年以上が経過した現在、穂別町民の博物館に対する関心はすっかり薄れてしまったことの反映であると考えられる。現行では、受付窓口では穂別町民の利用者は特に区別はしていないため、実際の利用者数を把握するには別途調査が必要である。

\*町民無料入館日：博物館開館記念日（7月20日）以降の7日間、敬老の日（9月15日）、文化の日（11月3日）、勤労感謝の日（11月23日）、成人の日（1月の第2月曜日）。その他、町内の児童生徒は毎月第2・第4土曜日は無料で入館できる。

##### C. その他記入されない場合

窓口が混み合っているなどの理由でアンケートの呼びかけができなかった場合、気づかれずに記入されないことが多い。また、「後で記入するから」と言って見学後そのまま退館する場合もある。年齢層では、若者のグループや、年配の人はあまり記入してもらえない傾向がある。

#### 4. まとめ

今年度および既存の調査結果に基づくと、穂別町立博物館の来館者の傾向として、「町外から初めて家族と観光に訪れる見学者」が大部分を占めている

ことがわかる（図7）。

これは、5月の大型連休や7～8月の夏休み時期に年間入館者数の大部分が集中するという傾向とも調和的である。穂別町立博物館の立地条件から、「観光」や「学習」などなんらかの目的無しに訪れる人は非常に少ないと思われる。さらに、隣接して穂別地球体験館があり、こちらは「地球環境（の暑さ・寒さ）を体験できる」ことを目玉に広報活動に力を入れている。よって、知名度としては穂別地球体験館の方が上であり（実際の入館者数でも博物館の1.5～2倍以上）、そちらを訪れた観光客が向い側にある穂別町立博物館を覗いてみる、というきっかけが多いようである。また、穂別町内にはキャンプ場もあり、夏休みにキャンプに訪れた家族連れがキャンプ前もしくは後、または雨天時に訪れる場合が多いと思われる。

これら、穂別町立博物館を取り巻く状況を考え合わせても、上述のアンケート調査結果は妥当なものであり、また、窓口業務を通じて経験的に抱いていた印象にも裏付けられるものと考えられる。

#### Ⅶ. 今後へ向けて

アンケート調査を踏まえての今後の方針、また、今回の調査では捉えられなかった事項で今後改めて調査する必要があると思われる点について以下に述べる。

##### 1. 調査結果を踏まえて

本年度のアンケート調査により、穂別町立博物館の来館者の傾向として「町外から家族と初めて観光に訪れた」という見学者が大多数を占めることが明らかとなった。「来館者向けの展示」を考えるのであれば、「専門知識を有していることをほとんど期待できない家族連れ」をまず念頭に置かなければいけないこととなる。

しかし、このことは、「観光型博物館」への方針転換に直ちに結びつくわけではない。

「穂別地域から産出する豊富な動物化石を調査・研究し、収集・保存し、普及・教育に活かす」という穂別町立博物館の基本姿勢は今後も持続されていくべきであると考えている。

しかし、博物館の利用者の大部分は常設展示の見学者であることは疑う余地がない。「魅力ある博物館づくり」を目指すためには、今回の調査結果が常設展示に反映される必要がある。

##### 2. 展示内容の検証

今回の調査では、展示内容に対する来館者の感想は得られていない。展示内容を検証する上では、来館者の視点が不可欠である。どの点を活かし、どの

点を改善していくのか、来館者の率直な意見が得られるような調査を行う必要がある。

### 3. リピーターの意識調査

今回の調査では、リピーター（2回以上訪れている見学者）の傾向はある程度は把握できた（図8～10）が、再び当館を訪れた理由は確認できていない。どこが気に入ったのか、どのようにすればまた訪れたいと考えるのか把握し、展示内容に反映させることによって、一人でも多くの人に再び訪れたいと思われるような博物館づくりを目指す。

### 4. 団体入館者の意識調査

団体入館者は、例年、年間入館者数の約20%程度（1999年度は20.78%）を占めるが、今回は調査の対象となっていない。当館の場合は10名以上が団体扱いとなる。団体入館者の主なものは、小学校・中学校あるいは幼稚園や高校の修学旅行や研修旅行、学生や教職員の研修、町内会や施設単位、「老人クラブ」等の旅行、市町村の職員や議会議員の視察などである。1団体当たりの人数では、小学校・中学校・高校が非常に多いため、団体入館者の年齢構成としては、「10代」がかなりの比率を占めることが予想される。また、来館の目的では「学習」が大きな比率を占めると予想される。

これら団体入館者は自らの意志で来館しているとは限らないため、今回の調査対象とはしなかった。しかし、年間入館者数のかなりの比率を占め、また、月によっては大きな比率を占める（図3）ため、個人入館者とは区別した上で、団体入館者の来館の目的や要求等を把握することが必要であると考えられる。

### 5. 展示見学以外の利用者の意識調査

今回の調査は、常設展示を見学を訪れる利用者を対象に実施した。しかし、これは博物館利用者の全てではない。「普及・教育」活動に限っても、1999年度は「展示案内」以外に「化石採集会」（2件）、「化石剖出（・レプリカ作成）」（4件）、「地質見学会」（1件）、「講演会」（4件）、「博物館めぐりツアー」（3回）を実施している（詳細は、櫻井、2000を参照）。こうした「普及行事」の参加者の要望を把握し、今後の博物館活動へ反映していくことを通じて、「魅力ある博物館づくり」を目指していきたい。

### 6. 穂別町民の意識調査

今回の調査では、既存の調査（特に、1986年度、1987年度、1995年度）と同様に穂別町民の利用率は著しく低い。1999年度調査では、穂別町民の利用はわずか33人である。1999年度全体の回答率

11.74%を単純に適用すると、博物館を見学を訪れた穂別町民の実数は281人となるが、これは穂別町の全人口（4,059人、2000年3月1日現在）のわずか6.9%にすぎない。

こうした穂別町民の利用率の低さは、博物館に対する関心の低さ、すなわち、博物館設立のきっかけとなった長頸竜化石の発見から20年以上が経過しているという現状を反映していると思われる。地域住民の理解なくしては博物館運営は成り立たない。穂別町民の博物館に対する意識は別な形で調査される必要があると考える。

### おわりに

来館者を対象として実施したアンケート調査により、穂別町立博物館の来館者の傾向として「町外から家族と初めて観光に訪れた」という見学者が大多数を占めることが明らかとなった。これはこれまで4回行われた既存の調査結果およびこれまでの窓口業務を通じて経験的に得られてきた印象とも調和的であり、妥当な結果であると考えられる。

近年、北海道の博物館についてのガイドブックが相次いで出版された（北海道博物館協会、1999；木村、1998など）。これは足寄動物化石博物館（1998年7月1日開館、足寄町）や日高山脈館（1999年6月26日開館、日高町）の開館など、道内各地で博物館が充実してきたことと同時に、余暇時間の活用として博物館に関心が集まってきたことが背景にあると思われる。

博物館利用者の大部分は、常設展示室の見学者である。常設展示は博物館にとって全てではないが、最大の「普及・教育」活動であることに疑いはない（地徳、1995などを参照）。今回の調査結果に基づき、「魅力ある博物館づくり」を目指すため、常設展示の充実を心がけるものとする。

さらにその一方で、利用者の博物館へ対する要望や感想を把握するため、穂別町民を含めて幅広い範囲を対象に、今後も調査活動を行っていく。

### 謝 辞

本報告の基礎となるアンケート調査については、当館職員である芦谷優子主幹に色々と提言を頂いた。また、調査の実施に当たっては、窓口業務を担当している山崎英子臨職および斉藤啓子臨職に全面的にご協力を頂いた。データの入力については、本年度の博物館実習生である北海道教育大学旭川校の住友静恵さんに一部協力して頂いた。以上の方々に心よりお礼申し上げる次第である。

### 文 献

地徳 力、1995. 博物館活動と小規模館の「学芸員」の業

- 務についての考察. 穂別町立博物館研究報告. 11, p. 37-46.
- 穂別町立博物館, 1986. 穂別町立博物館報 (第4号). 穂別町立博物館, 12pp.
- 穂別町立博物館, 1987. 穂別町立博物館報 (第5号). 穂別町立博物館, 14pp.
- 穂別町立博物館, 1995. 穂別町立博物館報 (第13号). 穂別町立博物館, 18pp.
- 北海道博物館協会, 1999. 北海道・新博物館ガイド. 北海道新聞社, 291pp.
- 木村 方一, 1998. 太古の北海道-化石博物館の楽しみ-. 北海道新聞社, 198pp.
- 櫻井 和彦, 2000. 小規模博物館学芸員の業務内容の実際 - 穂別町立博物館における 1998-1999 年度の実例 -. 穂別町立博物館研究報告, 16, p. 9-28.
- 鈴木 茂, 1982. 博物館アンケート実施報告について. 穂別町立博物館内部資料.

櫻井和彦, 2000, 穂別町立博物館の来館者の傾向 - 1999 年度調査結果より - 穂別町立博物館研究報告, 16, 29-40.

Kazuhiko SAKURAI, 2000, Visitors to Hobetsu Museum - Based on the result of a survey taken in 1999 -. *The Bulletin of the Hobetsu Museum*, 16, 29-40.

(要 旨)

1999 年度, 穂別町立博物館の常設展示を今後とも更新していく上での基礎資料として, 来館者の傾向を把握するために, 受付窓口においてアンケート調査を行った. その結果, 「町外から家族と初めて観光に訪れた」という見学者が大多数を占めることが明らかとなった. これはこれまで4回行われた既存の調査結果(1982 年度, 1986 年度, 1987 年度, 1995 年度)および, これまでの窓口業務を通じて経験的に得られてきた印象とも調和的であり, 妥当な結果であると考えられる.

見学者が訪れる常設展示は博物館にとって全てではないが, 最大の「普及・教育」活動であることに疑いはない. 「穂別地域から産出する動物化石を中心とした博物館」という基本方針は当面変更する予定はないが, 今回の調査結果に基づき, 「魅力ある博物館づくり」を目指すため常設展示の充実を心がけるものとする.